

2019年7月5日

HSBC、個人投資家向けSDG債の発行を支援

HSBCは、サステナビリティへのコミットメントおよび我々がビジネスを遂行していく上で、環境や経済、そして社会に対する責務を果たすことの一環として、日本の個人投資家向けの2つのSDG（持続可能な開発目標）債の発行を支援しました。

HSBCは、内藤証券株式会社が新たに販売を開始する米州開発銀行（The Inter-American Development Bank、以下「IDB」）発行の「EYEボンド（教育・若年層支援・雇用支援）」で、アレンジャーを務めています。今回発行されるのは、2年満期のトルコリラ建債券と3年満期のインドネシアルピア建債券になります。

社会からの企業に対する期待は変化しつつあり、投資家は企業の事業内容が人や地球環境に与える広範な影響をより重視しています。HSBCグループは、サステナビリティを事業戦略に組み込むことの重要性を認識し、公共セクター及び民間セクターが低炭素社会への移行を推進する際の主要なパートナーとなることを目指しています。

HSBCグループは、クリーン・エネルギーと低炭素技術の推進のために、2017年から2025年までに1,000億米ドルの資金提供を約束しています。2017年には国連の持続可能な開発目標に基づいた世界初となるSDG債を発行し、10億米ドルの資金を調達しました。2018年には、世界で総額20億米ドルを超えるサステナビリティボンド取引を行い、この分野を牽引する金融機関となっています^{注1}。

HSBCは過去10年間にヨーロッパおよびアジアにおいてお客様のグリーンボンド市場への参入を支援し、気候変動に対応する世界最大級のインフラ・プロジェクトの資金調達に携わってきました。

EYEボンド

EYEボンドは、IDBの適格EYEプロジェクト向け融資の資金調達を行うもので、「EYEボンド・プログラム」に基づいて発行されます。当該プログラムが資金調達するプロジェクトはIDBが行っている他のプロジェクトと同様に、持続可能な経済成長や貧困の削減、社会的公正を促進することを目的としていますが、当該プロジェクトは、特に教育・若年層支援・雇用支援の分野に注力しているのが特徴です。

IDBは人的資本の形成に関し、幼年期の保育から正規の小・中・高等学校教育、更に、職業訓練を通じ学校から職場への移行を容易にするための就労支援プログラムまでを網羅する「ライフサイクル・アプローチ」を採用しています。このようなアプローチにより、IDBは、自身が介在するいくつかの重要な局面により、青少年の社会参加を促進し、ラテンアメリカやカリブ海諸国における生産性の向上に寄与しています。

今回発行されるEYEボンドの概要は以下の通り

(1) TRY建 ゼロクーポン債

発行体：米州開発銀行

発行体格付：AAA (S&P) /Aaa (Moody's)

発行日：2019年8月8日

償還日：2021年8月9日

(2) IDR建（円貨決済型） ゼロクーポン債

発行体：米州開発銀行

発行体格付：AAA (S&P) / Aaa (Moody's)

発行日：2019年8月8日

償還日：2022年8月9日

内藤証券は持続可能な未来の構築に取り組むと共に、日本の個人のお客様にSDG投資の機会を提供しています。同社によるSDG関連商品の提供は、今回の発表により、この2年間で9回目および10回目になります。

注記:

1. Environmental Finance 誌

IDB の概要

米州開発銀行（The Inter-American Development Bank、以下「IDB」）は人々の生活の改善のために1959年に設立されました。IDBはラテンアメリカやカリブ海諸国で経済、社会、組織の開発のために長期的な資金提供を行う有数の機関です。IDBは最先端の研究を行うと共に、政策に関する助言、技術支援やトレーニングを、この地域における公共セクター及び民間セクターのお客様に対して提供しています。

1976年にIDBにとって初となるアジアからの加盟国となった日本は、ファンドやプログラムを通じて数々のIDBのプロジェクトに携わっています。

HSBC グループ

HSBCグループの持株会社であるHSBCホールディングス plcは英国・ロンドンに本部を置いています。HSBCグループは、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ、中東、北アフリカにまたがる66の国と地域でお客様にサービスを提供し、2兆6,590億米ドル（2019年3月末現在）の総資産を持つ、世界有数の金融グループです。

以上